

教授

幸 史子

■ 学歴

1. 熊本大学社会文化科学研究科博士課程 修了

■ 学位

1. 学術博士

■ 研究分野

1. コミュニケーション
2. 高齢者の腹膜透析
3.

■ 研究キーワード

1. 臨床看護師
2. コミュニケーション力
3. 腹膜透析

■ 研究課題

1. 臨床看護師のコミュニケーション力について、スキルタイプを特定し、新人看護師と熟練看護師にどのような違いがあるかを考察する。
2. 高齢の腹膜透析患者が、住み慣れた場所で生活を続けていくための方法を検討し、腹膜透析の普及を目指す。

■ 担当授業科目

※該当なし（2025 年度入職）

■ 授業を行う上で工夫した事項

※該当なし（2025 年度入職）

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2015年4月	日本看護学教育学会	なし
2.	2015年4月	日本看護科学学会	なし
3.	2014年10月	日本医療・病院管理学会	なし

2

■ 研究業績等に関する事項（2024 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
(著書)					
1.					
2.					
3.					
(学術論文)					
1.					
2.	2024年 7月	Nursing explanation skills in education and practice Development skills and influence on incident occurrence	共著	Journal of Nursing Education and Practice.	① 心理学的尺度を開発し、説明スキルが、患者の安全に与える影響を調査することを目的とした。その結果、7つの共通サブスキルと患者/家族およびスタッフごとに1つの特定のサブスキルを含む9つのサブスキルが特定され、「思いやり」と「共有メンタルモデル」に分類された。また、臨床ラダーの進行は、思いやりと共有メンタルの両方に関連していた。更に、思いやりは相互作用の失敗による様々なインシデントの可能性を高める要因として特定され、対照的に共有されたメンタルモデルは、判断ミスによる重大インシデントや概念的欠陥による軽微なインシデントの発生確率高めた。 ②共著者名：藤本学、島村美香、幸史子
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.	2024年 4月	ディスコミュニケーションを防ぐ看護職の説明スキル	共著	第10回日本医療安全学会学術集会	① 総合病院に勤務する看護師を対象にグーグルフォームを用いた質問紙調査を実施した。その結果、説明者である看護師の説明スキルの低さがディスコミュニケーションを招き、結果としてインシデントが誘発されることが明ら

					かとなった。 ② 共著者名：藤本学、島村美香、幸史子
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
1.	高齢腹膜透析患者の地元くらしを支える看護－介護チームビルディングプログラムの開発	日本学術振興会（科学研究費助成事業基盤研究 C）	○（遠藤和子） 研究分担者：幸 史子	500000 円
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等
1.			
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

※該当なし（2025 年度入職）